

資本主義最近の段階に於ける

一般状勢

世界資本主義體制を根底から震撼する二重の種類動勢が、刻々不斷に進展してゐる。

一つは労働者農民社會主義國家の異常急速なる發展躍進の業績に基く同國及び世界無產階級の勢力成長これであり
一つは世界資本主義體制に固有な矛盾の深大激化、すなはち生産と市場との對立、不均衡の擴大化、いはゆる過剰生
産恐慌をその共通本質とする金融恐慌——通貨制度の自壊作用等、一般的危機への全面的な進展これである。
植民地半植民地に於ける生産力の發展、民族運動、階級闘争、反帝闘争、及び帝國主義國家との對立激化も亦同様
である。これら相互の關係は、尖銳相乘的に對立し、爆破なくしては不可避な行程が「世界恐慌」と戰争の危機を表徵
する動搖の段階」たる世界資本主義第三期の約束された前途である。

日本資本主義が「一般的危機」なる言葉を以て要約される戰後資本主義第三期の有爲な構成要素であることは言ふ
までもない。

新たなる發展の動態を示しつゝあつた世界資本主義が一九二八年にその第三期的特質を現はし始め、一九二九年に
至り一般的確認を與へられるまで、アメリカ自身夢中になつて宣揚しつゝあつた萬年景氣の失脚を、いさゝかも疑は

なかつたであらう十月二十九日に、晴天の霹靂の如くアメリカ取引所を襲つた恐慌が、まさに不景氣の怪物であった
ことは公明の事實である。

第三期世界恐慌の序幕が單なる臺詞や偶然事で説明できないのは當然であらう。全世界經濟の五〇パーセントに當
ると稱せられたアメリカ經濟の恐慌は、それ自體世界恐慌の現象形態であるのみか、關係諸國の恐慌契機を重成した
否み難い重大事變であり、これが日本資本主義經濟に加へた打撃は特に甚大であつた。

アメリカに對する輸出貿易の死活権を制する生糸の輸出減退、爾後の暴落——引續き對支輸出の減退、同じく世界
市場の全面的狹隘化は、棉花の崩落、小麦の崩落、銀の崩落等々に相乘して日本資本主義の全面貌を痛打した。
日本海運界の不況沈滯は、かゝる恐慌形相の代表的な一面であり、その必然的作用が、貨銀切り下げ…………
(最低貸銀の切り下げ)大宗繫船一大量減員等の無慈悲な犠牲を強制したことは、我々の身を以て體験せる事實であり、
これに從屬的な港灣運輸產業の決定的な不振と生活苦も亦同體であつた。
しかも獨占資本の根幹を形成する支配勢力たり得ない港灣運輸の弱體資本は、同様に又產業合理化の成就をも強行
し得ない資本であり港灣労働者の食ふや食はずの生活を最强の支柱として一慾々と……(但し擣取するこゝを止めなさい)
辛ふじてその日暮しを續けてきたのであり、今尚それを續けつゝあるのである。

金輸出禁止繼續を不可能とした日本資本主義の深大矛盾は、等しく世界資本主義に共通な矛盾の典型表徵であり、
同義背反的な金解禁繼續の不可能を餘儀ながらしめた怪物でもあつたのである。